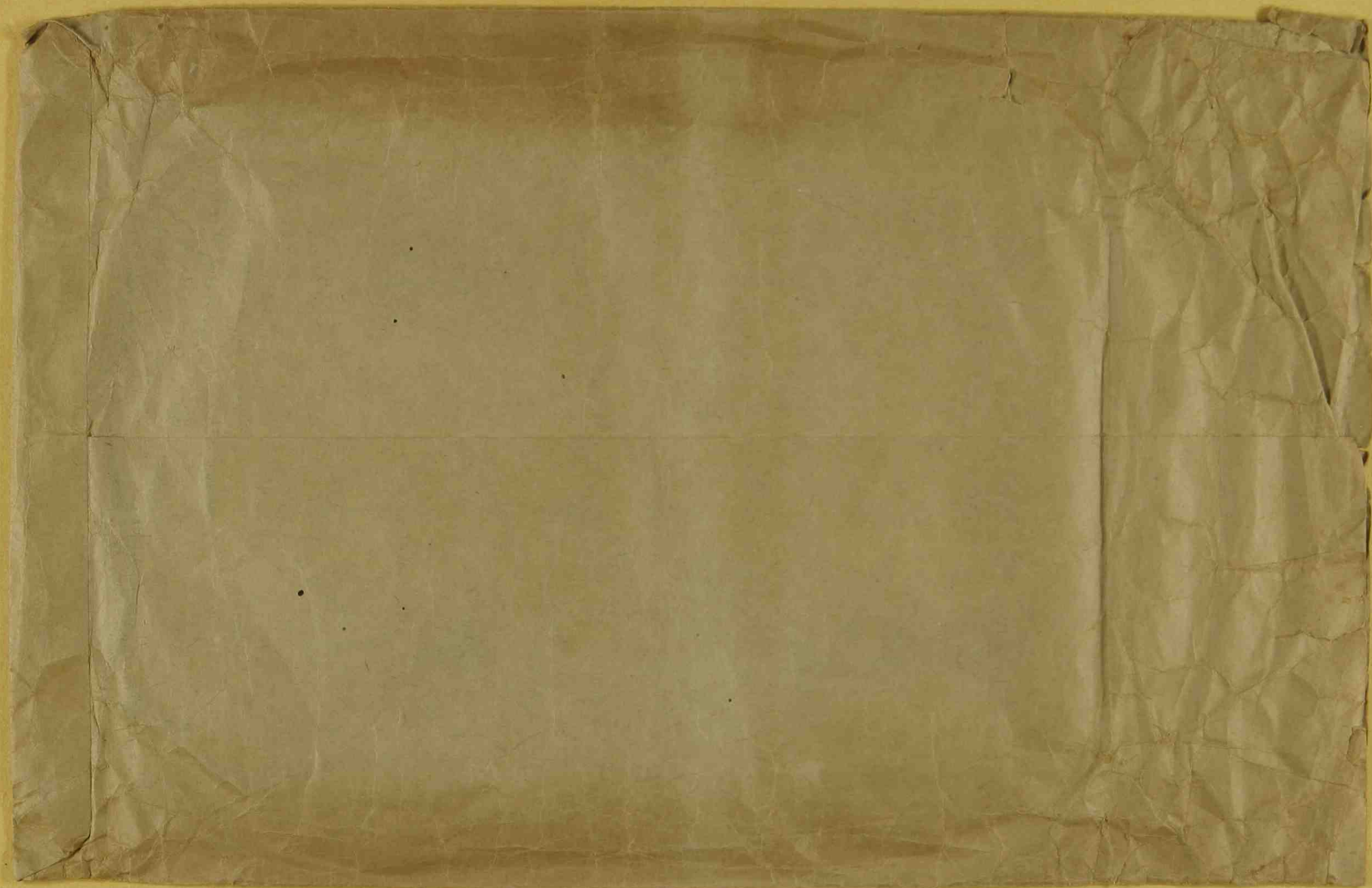


先 屆

1888 年 3 月 19 日
1888 年 4 月 1 日

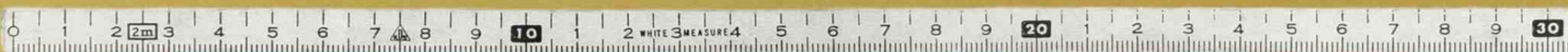
目 丁 三 町 淵 片 市 崎 長
課 書 圖 校 學 業 商 等 高 崎 長
會 議 協 館 書 圖 校 學 諸 等 高 國 全



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, arranged in vertical columns. The text is written on aged, slightly damaged paper. The characters are dark ink, and the overall layout suggests a formal document or a collection of notes. The text is organized into several distinct groups, some of which are separated by small gaps or lines. The paper shows signs of wear, including creases and discoloration, particularly along the edges and in the center fold.



御膳入 石巻石
ゆきまき石

おき 石巻石
石巻石

おき

下巻石
石巻石

石巻石 石巻石
石巻石

麻布がせ二ホ谷

目上 石巻石

石巻石

石巻石

石巻石

石巻石

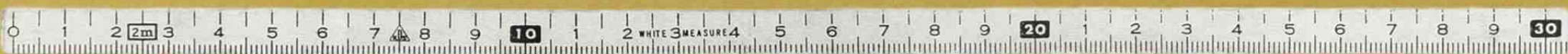
石巻石 石巻石
石巻石

石巻石
門人 父子

まゝに
三月三日

名

ふりし
ト
八人
二十
三
付
所
す
下
〇
下

[illegible]

一 港に二港又一港の如く年々増え進の口實を以て
りねと云ふは誤り也と云ふは誤り也

一 古くより港に事あるは上り也に港の如くは事あるは
下り也英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也

一 英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也
英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也

一 英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也
英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也

一 英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也
英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也

一 英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也
英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也

一 英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也
英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也

一 英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也
英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也

一 英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也
英吉利佛蘭西出上り港の如くは事あるは上り也

古陽所爲矣 政府古 石之爲厚也 滑中 所立

一、席東に於て、東の地へ小段人出を云ふ。又、

一作、
一昨、
て得、
雷、
追、

一
上
時
義
下

支那に害を及ぼすものありと云ふは、
 外に國に害を及ぼすものありと云ふは、
 河に害を及ぼすものありと云ふは、

一、夜十外、二庫、三、六、波、四、商、五、七、檢

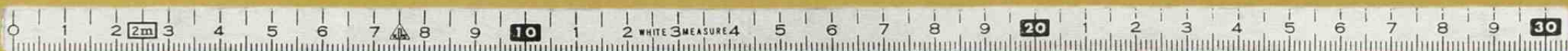
小京、三三三に於て、
廣東、我々能く分る
勿論、廣東、東、
政府、
、

一
江
海
子

英山七佛堂前月盟合好

[illegible]

合意に及ばずハナハナ

[illegible]

江戸より手紙

一 江戸から手紙が来た。江戸の人々も、江戸の

大見出しの通り、江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

江戸の江戸の江戸の

八

芝田町七番地

子母屋

市心

五十八

三河町三丁目

七

口

大井町定五郎上伯者少目見園書
白掃子少平少中忠少伯者少中

三月十日

市心

市心町

石川次郎

三月十日

市心

市心町

三月十日

市心

市心町

市心

三月十日

市心

市心町

市心

市心

市心

ח

一也乃上瑞辰

楊心入

□

字心齋

一、此乃之口口

入宰

同

宿飢

東山先生之

李公孫
李公孫
李公孫
李公孫
李公孫

二十九之

五言詩一首
五言詩一首
五言詩一首

股泉

子

此後
所經
中化

徐仲武

三十一

後

後北條

二
十

小川所著
太平記の巻

也

細川凌虎

伊
十
十
十

水級家斗
太宰府

雷

松年侯萬壽

金部四行

部

林

對列古村石

以年乞食

又
上
十
一

卷之七

係
子

17

一、君之揚厲也

回及終

同

同

17

13

7

17

七

一、子、石、人、所、

小書作此
下回見

大石又收之

川井山

中井
政

蘇軾詩集卷之四

常

梅欽老兄
武列首師
南山竹枝

利
吾
好
阿

松年校書家來

抄本
古
同

伊達子江家斗

古之長也

千九百零五年
古史記

友中其素也

常服
保升堂
引我授名

汲冢書

松平修理家世
伊予松平家

日下
二十

何於十次仰亦未
信地未作高

ちの

